
あいつはいいわな

白坂 ゆのる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

・あいしてるはいわないで

【コード】

N3806C

【作者名】

白坂 ゆのる

【あらすじ】

あいしてる、なんて詞であらわせるほど、愛は単純なものじゃない。とぼくは思う。

あいしてる、なんてかんたんなこと、ぼくたちの関係を表してほしくなかった。

ふたりが、出逢うまでの空白の時間を埋めていくような、そんな関係になりたかった。

「すき、ゆうま」

甘い媚をふくんだ眼つきで、彼女はじつとぼくを見つめた。

アルコールがききすぎたのだろうか、どこかそのひとみはとろんとしている。

そしてやっぱり彼女は酔っているようで、ぼくの耳に吐息をふきかけ、なめることをやめようとしなない。

ちよつとした大人の音が、ぼくの五感を甘く支配する。

「やめてくださーい」

「えー」

「えー、じゃなくて」

ぼくはそういつて彼女を引っぺがすと、彼女は口をとがらせてすねてみせた。

それがまるで幼児のようで、ぼくはついつい噴出してしまった。

「もおー、さいあく」

「ごめんごめん」

「ゆうまなんて、きらい」

「ほんとにごめんって」

「…うー」

すねる彼女の頭を、くしゃくしゃと撫でまわすとおとなしくなったようにぼくの膝に頭を乗せてきた。

「おまえ、ほんとに妹みたいだな」

「いいじゃん」

「はいはい」

ぼくの方に顔をむけて、彼女はうれしそうだった。そんな彼女がたまらなくいとしくて、ぼくは彼女にゆっくりと甘いくちづけをする。

口内に、彼女の生暖かい吐息が感じられる。

くちびるからはずして、今度はくびすじにいくつもくちづけをする。残っていく、淡いピンク色の刻印が、ぼくたちの愛のかけらのような気がして、それすらも撫でまわしたくなるくらい、いとしかった。「すき」

「うん、ぼくもだいすき」

「あいしてるって、いってよ」

ぼくがそのことばをきらっているのをしっているくせに、彼女はそのことばを求めた。

挑発的に、しかしあくまで可愛らしく、だ。

「女って、ずるいな」

それだけ言い残して、もうそんなことを彼女がいえないように、ぼくはもう一度甘く、彼女のくちびるを塞いだ。

甘い、口止め。

「ゆづま、ずるい」

彼女はうるんだ瞳をしながら、ぼくをぽかぽかと叩く。すごく、すごくいとおしい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3806c/>

.あいしてるはいわないで

2010年10月17日02時08分発行